

ねん がつ にち
2023年4月30日

ふっかつせつだい しゅじつ
復活節第4主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

きょうかい ふっかつせつだいのしゅじつを、せかいしやうめい きがんび さだめており、しさい しゅうどうしや しょうめいのために、とくにいのねがひとして、ことしは2019年以來4年ぶりに、とうきょうきょうくのいちりゅうかい しゅざい しんがくせい しがんしゃ いっしょに、しょうめい きがんに、召命祈願ミサがささげられます。

あらためてみなさまには、しさい しゅうどうしや しょうめいのために、またその道（みち）を歩（あゆ）んでいるしんがくせい しがんしゃのために、いのねがひとして、お祈りくださるよう、お願いいたします。

また、しょうめい かたを語ることは、ひとりしさい しゅうどうしや しょうめい かたを語ることにとどまるのではなく、すべてのキリスト者（しや）に、とくにしんとこゆうに固有（こゆう）のしょうめい かたを語ることもあります。

だいに こうかいぎ きょうかいけんしやう しる
第二バチカン公会議の教会憲章には、こう記されています。

「しんとこゆう しょうめい げんせてき じゅうじ かみ したが ちつじよ
「信徒に固有の召命は、現世的なことがらに従事し、それらを神に従って秩序づけながら神の国を探し求めることである。自分自身の務めを果たしながら、福音の精神に導かれて、世の聖化のために、あたかもパン種のように内部から働きかけるためである」

(31)

「じぶんじしん つと しゃかい なか ほ だね ないぶ はたら
「自分自身の務めを」社会の中で果たしながら、「パン種のように内部から働きかける」しょうめい い ひと ひつよう ふくいん せいしん みちび よ せい か しょうめい
召命を生きる人がいます。福音の精神に導かれて、世の聖化」のために召命を生きる人がいます。しょうめい とくべつ ひと とくべつ やくわり かた
召命は、特別な人の特別な役割のことだけを語っているのではなく、すべてのキリスト者（しや）に、あたえられている使命（しめい）について、せきにん ももと
責任を持つようにと求めるものです。

ふくいん ぼくしゃ すがた しる ひつじ ぼくしゃ こえ き わ したが
ヨハネ福音はよい牧者であるイエスの姿を記します。羊はよい牧者の声を聞き分け、従うことで、救いへとつながる羊の門へと導かれます。よい牧者であるキリストの声を聞き分け、よい牧者が示す道を見だし、それをすべての人に届けるためには、一人ひとり

りのキリスト者の働きが必要です。暗闇に彷徨う多くの人に、永遠のいのちへとつながる道を示すのは、わたしたち教会の務めです。

互いへの信頼が失われ個人主義の深まる社会にあって、パン種のように、「神に従って秩序づけながら神の国を探し求める」召命に生きる人の存在が、これまで以上に必要です。たとえ一人の働きは小さくとも、まさしく小さなパン種がパンを大きく膨らませるように、その働きは福音宣教に大きな実りを生み出します。

牧者であるキリストの声が、社会に大きく響き渡るように、すべての人に届くように、努めましょう。世の終わりまでともにいてくださる主に信頼しながら、その声がすべての人の心に響き渡るように、わたしたち一人ひとりに与えられている召命を見つめ直してみましょう。